

総合計画審議会計画推進評価部会の意見と対応

(H24.10月 素案に対する意見)

NO	委員名	区分	意見	対応
1	内田委員	全体	全体として素案どおりに進めるべき。	基本的に素案のとおりとします。
2	江口部会長	3(3)	委員に評価報告書を読んでもらうためにも、グループ会議の前に意見を提出する機会を設けた方がよい。	グループ会議を効率的・効果的に運営するため、事前に評価報告書を読んでもらうよう工夫します。
3	内田委員	3(3)	グループ会議での議論は、取りまとめて議決するよりも、参考意見として議事録に整理しておいた方がよい。	グループ会議で議論した意見は、総合計画審議会の二次評価として取りまとめますが、その議論は議事録に整理します。
4	江口部会長	3(4)	数値目標だけでなく統計データも活用して総合分析をすることであるが、プロジェクト全体の達成状況を分かりやすく(ランク付けして)示すのは難しいのではないかと。	プロジェクト全体の達成状況を分かりやすく示す手法については、今後さらに検討します。
5	江口部会長	3(4)	「財政状況が厳しい中」とあるが、評価の前提とするにはしっかりと裏付けが必要であり、表現を工夫した方がよい。	表現を修正しました。
6	岡谷委員 (ヒアリング時の意見)	3(4)	数値目標が明確に立てられるものは、数値による達成度を示した方が説得力が出るが、新しい仕組みを作っていくような場合は、数値になじまず評価が難しい。	プロジェクトの数値目標の達成状況を整理するとともに、社会環境の変化を示す統計データなどを活用して総合分析を行います。
7	齋藤(文)委員	3(4)	毎年度の実績だけでなく、経年の実績がどう変化しているのか、分かる記述があるとよい。	数値目標の実績については、経年変化を示すこととします。
8	山本委員	3(4)	「他都道府県との比較」とは、どのような都道府県とどのように比較をするのか。	「他都道府県との比較」は、神奈川県の実績が他都道府県と比べて特筆すべきものがある場合など、必要に応じて取り入れることとします。
9	高橋委員	3(5)	パンフレットを若い世代向けに携帯端末で簡単に閲覧できるようにし、予備知識がなくても理解できるように内容を工夫したり、理解度に合わせたシリーズを用意することが効果的である。	より多くの県民に向けた「概要版(パンフレット)」を作成し、ホームページに掲載します。また、ホームページへの掲載手法などについては、今後さらに検討します。

NO	委員名	区分	意見	対応
10	齋藤(文)委員	3(6)	将来を担う小学生(高学年)・中学生や若い世代向けにアピールできるパンフレットを作成し、学校教育の中で伝えていったらどうか。	評価報告書の完成後、県民の求めに応じた出前講座や、県が開催する様々なイベントや説明会などの機会を通じて、積極的な説明と意見聴取に努めます。
11	齋藤(文)委員	3(6)	評価の公表後、タウンミーティングなど双方向型で議論するスタイルを取り入れてはどうか。	
12	土井委員	3(6)	子育て支援についての意見は、保育園に子どもを通わせている保護者が集まる場所で配るなど、効率的かつ的確に意見をもらえるよう工夫する必要がある。	
13	山本委員	3(6)	ソーシャルネットワーキングサービスとしては、どのようなものをどのように利用するのか。	フェイスブックの活用などを想定していますが、具体的には今後さらに検討します。
14	山本委員	4	「神奈川モデル」について簡潔に説明があった方がよい。また、どのようにして「神奈川モデル」の取組み結果を公表するのか。	「神奈川モデル」の取組み結果をどのように公表するかについては、今後さらに検討します。